

今日から始めよう!! ごみのダイエツト通信②



今回のテーマは「ごみ減量化作戦」です。

「燃せるごみ」の約50%が家庭で出される「生ごみ」です。

そのほとんどが水分であることは、みなさんご存知かと思えます。

そこで、生ごみとして捨ててしまう野菜や果物の皮などを、捨てる前に、ちよつとした工夫をして、ごみの減量化に取り組んでみませんか。

ごみ減量化作戦

料理のときに出る野菜の皮をキッチン三角コーナーに入れる前に、新聞紙などに広げて乾かしてみてください。

3日程度乾かすと、約3分の1以下となり、大幅な減量化となります。

ごみの収集日に燃せるごみの袋を持ったとき、「あれっ、軽くなつたかな?」と感じるかもしれません。

これからの時期は、家の中に置いておくだけで乾かすことができ、保湿効果も期待できます。

おおいそ廃棄物減量化等推進員では、大根の皮やじゃがいも

の皮など、いろいろなものを使って、ごみ減量化作戦の実験を行いました。

その結果をいくつかご紹介いたしますので、ぜひ、ご家庭で試してみてください! (左表参照)

おおいそ廃棄物減量化等推進員の『ごみ減量化作戦』

品名	ダイエット前	ダイエット後	ダイエット率
大根の皮	100g	8g	92%
じゃがいもの皮	100g	26g	74%
キャベツの外葉	100g	13g	87%
かぼちゃの皮	100g	33g	67%
バナナの皮	100g	29g	71%

※すべて3日乾かすダイエットを行いました。
※皮をむく厚さによっては、多少の誤差が出ます。

ごみのダイエツト策を教えてください
みなさんが日ごろ、ご家庭で実践している取組みがあれば教えてください。ごみに関する疑問や質問でも構いません。お待ちしております。

◎問い合わせ

環境経済課

☎内線359



施設見学レポート

剪定枝資源化施設を訪ねて

おおいそ廃棄物減量化等推進員

6月から剪定枝、葉や草の分別回収が始まりました。それらリサイクル資源として処理しているという工場の見学に行ってきました。

松田町にあるこの施設は、平成21年9月に稼働を始め、廃材や剪定枝などを燃料用チップと製紙パルプ用チップの2種類に加工しています。また、葉や草は肥料として処理されます。



▲ストックヤードに置かれるチップ



▲ベニヤなどの廃材置き場

れ5cmくらいに碎かれ、チップに加工されます。現在、燃料用として7割、製紙用として3割の割合で生産しているそうです。これらは製紙会社に運ばれ、ダンボールなどの紙の原料になったり、重油のかわりに燃料として使われたりしています。化石燃料からの脱却が進む中、このような木材を使った燃料の需要が多くなっているそうです。

大磯町の場合は剪定枝、葉草などを引き取ってもらっていますが、この施設の方にお話を伺うと、葉や草をごみ袋の中で

湿った状態で置いておくと、中で腐ってしまうことがあり、困るそうです。葉や草はなるべく乾かし、土を極力落として出すことが大切ではないかと思えました。

また、引き取ってもらう重量が多くなると、その分、処理費用がかかってしまうことにもなるそうです。出来る限り、土を落として重量を減らす工夫が必要と思えました。

町の分別回収はまだ始まったばかりで、よく理解されていないようですが、「分別回収の日」に出されたものは、資源化されます。

一方、「燃せるごみの日」に回収されたものは、大磯町の焼却炉で燃やされます。

分別回収の回収日は、月に2回と少ないのですが、リサイクルすることを心がけていくことが大切ですので、剪定枝は出来る限り分別回収の日に出していきましょう。

◎問い合わせ

環境経済課

☎内線359